

2012 年度生涯学習論 I Lifelong Learning I

担当： 留学生日本語教育センター 教授 谷 和明

連絡先 留日棟 503 TEL/FAX 042-330-5773 Email: sk-tani@tufs.ac.jp

<目標>

「教育全体の哲学、概念的枠組、体系化の原理」(UNESCO)とされる生涯学習の理論と実践を、歴史、制度・施設論、文化政策論、学習論の視点から多面的に検討し、その現代的意義を考えてみる。前期の I では、生涯学習が 19 世紀以来の成人教育・社会教育という実践領域から発展してきた過程を歴史的に考察して生涯学習の理念を明らかにするとともに、日本の代表的生涯学習施設である公民館に焦点を当てて生涯学習の現状と問題点を具体的に理解することをめざす。

生涯学習を理解するためには、その実践事例を体験することが不可欠なので、施設見学や近隣自治体の生涯学習施設等でのフィールドワークを行う。

<概要>

生涯学習の理論・実践の歴史的考察により生涯学習の理念を明らかにするとともに、日本の代表的生涯学習施設である公民館に焦点を当てて生涯学習の現状と問題点を理解する。

<授業計画>

- 4月17日 生涯学習への招待：何を学ぶか、どのように学ぶか
 - 4月24日 現代の教育政策理念としての生涯学習（1） 提唱と普及の過程を追跡する
 - 5月1日 現代の教育政策理念としての生涯学習（2） CONFINTEA6 の地平：現代の生涯学習の到達点とその課題
 - 5月8日 現代の教育政策理念としての生涯学習（3） 生涯学習の跳躍点となった 1976 年ナイロビ：2つの UNESCO 勧告文書を解読する
 - 5月15日 日本の生涯学習の現状：法と統計を手掛かりに
 - 5月22日 生涯学習の施設
 - 5月29日 公民館の歴史と制度
 - 6月5日 公民館の学習実践
 - 6月19日 近隣自治体の公民館事業+ドイツ生涯学習最新事情
 - 6月26日 アジアにおける CLC の展開
 - 7月3日 ヨーロッパにおけるセツルメントの歴史
 - 7月10日 日本の生涯学習の特徴—国際比較の観点から
 - 7月17日 近隣自治体での生涯学習事業の検討（1）—フィールドワークの報告
 - 7月24日 近隣自治体での生涯学習事業の検討（1）—フィールドワークの報告
- まとめ

評価 平常点（30%）と期末レポート（70%）によって評価します

*テキスト 第6回国際成人教育会議のための国内「草の根会議」編『日本の社会教育・成人教育—最近12年の政策・実践・運動：分析と提言—』2009年（非売品：自家製本版を配布する）

*参考文献 日本公民館学会編『公民館のデザイン』エイデル研究所 2010

*その他必要な UNESCO 等の資料については随時配布する